

9/4 第10回普天間飛行場負担軽減推進会議作業部会

普天間飛行場の負担軽減等について関係府省が連携して推進するため、政府・沖縄県・宜野湾市の三者で構成される普天間飛行場負担軽減推進会議の作業部会が開催され、本市からは和田副市長が出席しました。和田副市長は、普天間飛行場所属機の事故や夜間騒音、外来機の飛来による航空機騒音の激化などに触れ、市民が実感できる形での負担軽減を早急に実現していただくよう求めました。また、抜本的な解決策として、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と返還期日の早期確定について要請しました。

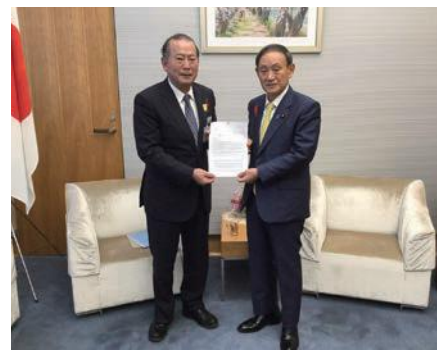


10/2,3 普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還及び速やかな運用停止の実現並びに基地跡地利用の推進について(要請)

普天間飛行場の全面返還合意から23年が経過する今なお、返還が実現していないなか、普天間飛行場所属機による事故や夜間騒音、外来機の相次ぐ飛来に伴う騒音被害を訴える声が年々増加している現状を踏まえ、一日も早い閉鎖・返還と返還までの間の危険性の除去及び基地負担軽減の実現に向けて、目に見える形での取り組みを要請するとともに、返還期日を確定するよう強く求めました。

また、西普天間住宅地区における跡地利用の推進については、過重な基地負担を強いられてきた市民へ明るい未来を提示するものであり、引き続き財政支援を積極的に取り組むよう要請しました。

【要請先】内閣官房長官、防衛大臣、外務大臣、内閣府特命担当大臣(北方及び沖縄担当)



令和元年度

「対日理解促進交流プログラム」カケハシ・プロジェクト(米国)

「アメリカで沖縄の未来を考える」(TOFU)プログラム(高校生／大学生)

外務省による米国への派遣プログラム実施のご案内

外務省沖縄事務所から、対外発信力を有し、将来を担う人材を招へい及び派遣する『カケハシ・プロジェクト(KAKEHASHI Project)』の一環で実施される、「アメリカで沖縄の未来を考える」(TOFU: Think of Okinawa's Future in the U.S)プログラムのご案内がありました。

本プログラムは、沖縄の将来を担う高校生・大学生を米国に派遣し、政府関係者との意見交換や米国の代表的な歴史・文化施設等の視察を通じ、語学としての英語力向上を図るとともに、英語を用いて様々な分野について学ぶ教育機会を提供するとともに、よりグローバルな視点を深めてもらうことで、国際社会で活躍する人材育成を行うことを目的としています。

昨年度は宜野湾市在住の学生4名を、平成31年3月20日から3月27日の8日間、米国(ワシントンDC、ニューヨーク他)へ派遣することが出来ました。

プログラムへの参加をご希望される場合は、参加条件をご確認の上、応募申込書に必要な事項を記載し、基地渉外課までご提出ください。募集要項、日程案、応募申込書等詳細については、宜野湾市ホームページをご確認ください。

【3/25 ケネディ前米国駐日大使へ表敬訪問の様子】▶



派遣期間 2020年3月予定(6泊8日予定)。 派遣先 米国(ワシントンDC、ニューヨーク他を予定)

参加条件 派遣時に高校生・大学生及びそれに準ずる教育機関に在学している者であること(年齢25歳以下)
※本プログラム参加条件は他にもございます。詳細は募集要項でご確認ください。

プログラムに係る費用 基本的には公費負担、但し東京までの旅費及びパスポート取得費等は参加者負担
※詳細は募集要項でご確認ください。

応募締め切り 令和元年12月10日(火) 応募申込提出先・お問い合わせ先 基地渉外課(宜野湾市役所 別館3階)

☎ 098-893-4411(内線310) ✉ kichi02@city.ginowan.okinawa.jp



HPはコチラ▲